



Nissan Chemical
CORPORATION

R&D説明会

2025年6月16日

常務執行役員 CTO 企画本部長 遠藤秀幸

執行役員 材料科学研究所長 仁平貴康

執行役員 生物科学研究所長 仁木俊夫

専務理事 物質科学研究所長 三田猛志

Contents

1	歴史とコア技術	P4
2	R&D体制	P7
3	方針と基本戦略	P10
4	事業基盤の強化	P12
5	次世代材料・新剤、新製品の開発ターゲット	P18
6	各研究所における取組み	P21
7	目指す姿	P41

Contents

1	歴史とコア技術	P4
2	R&D体制	P7
3	方針と基本戦略	P10
4	事業基盤の強化	P12
5	次世代材料・新剤、新製品の開発ターゲット	P18
6	各研究所における取組み	P21
7	目指す姿	P41

1. 歴史とコア技術 -当社の歴史-

1887

東京人造肥料会社設立

1937

日産化学工業株式会社に改称

1965

石油化学事業へ進出

1988

石油化学事業から撤退

1989

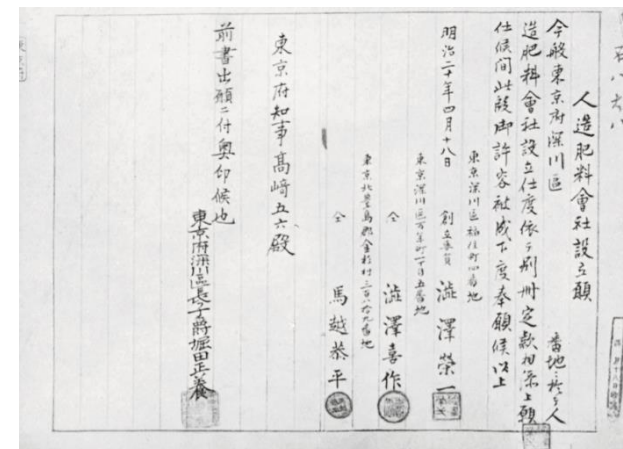
事業構造の転換

2018

日産化学株式会社に名称を変更

2022

Vista2027 始動



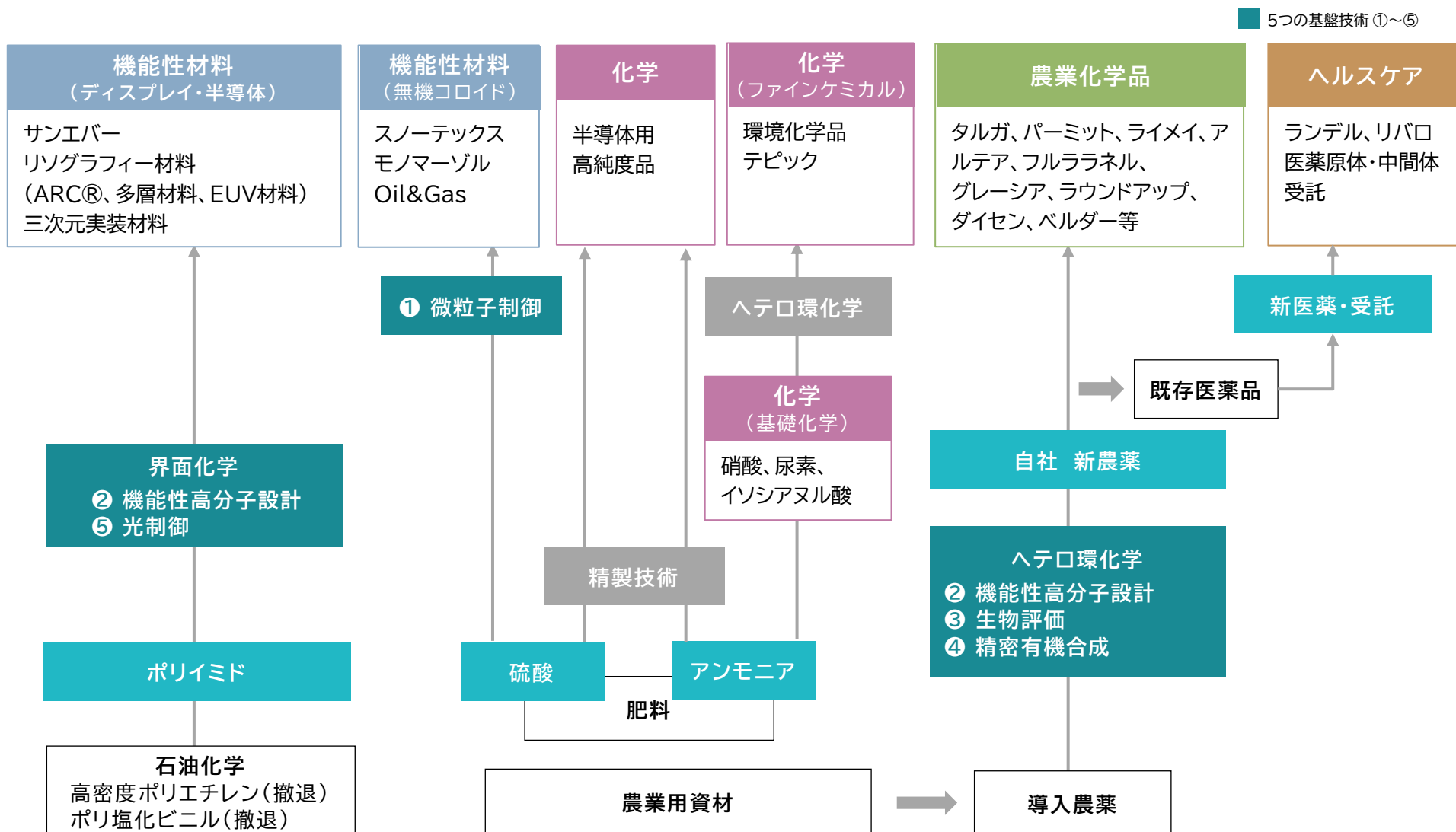
澁澤栄一

高峰讓吉

- 石油化学事業撤退を機に、高付加価値製品に転向
- 1989年に「農業・医薬などのハイテク分野」と「機能製品・化学品などの技術分野」を両輪とした”価値創造型企業”として再スタート

1. 歴史とコア技術 -コア技術-

<現有事業とコア技術>



Contents

1	歴史とコア技術	P4
2	R&D体制	P7
3	方針と基本戦略	P10
4	事業基盤の強化	P12
5	次世代材料・新剤、新製品の開発ターゲット	P18
6	各研究所における取組み	P21
7	目指す姿	P41

2. R&D体制 - 研究所の拠点 -

NCK Co., Ltd.(韓国)
ディスプレイ材料・半導体材料の研究開発・販売

材料科学研究所(富山)
半導体材料開発

物質科学研究所(千葉)
創薬(合成)研究
コーポレート研究開発

Imec (ベルギー)へ
研究員2名派遣



生物科学研究所(埼玉)
ライフサイエンスの研究拠点



材料科学研究所(千葉)
機能性材料・新製品材料研究開発

日産化学材料科技(苏州)有限公司(中国)
機能性材料の研究開発・販売支援・普及サービス



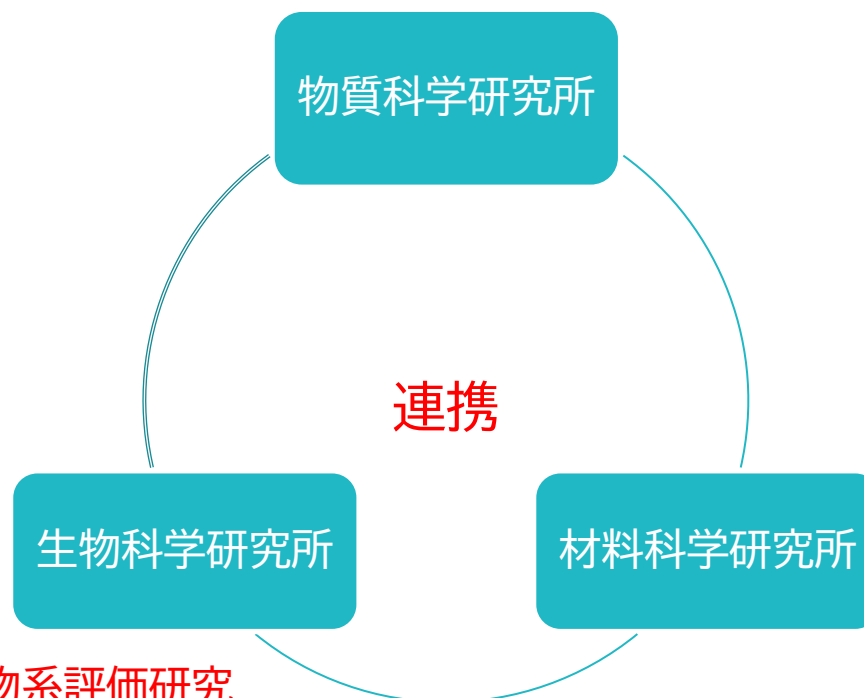
材料科学研究所(千葉)
無機コロイド研究部

台湾日産化学股份有限公司(台湾)
ディスプレイ材料・半導体材料の研究開発・販売支援



2. R&D体制 - 各研究所の機能と連携 -

- 精密有機合成の技術力による、**農薬・医薬の創製研究**
- 農薬・医薬・材料の開発候補品の**製造プロセスの検討**
- 最先端の**物質解析**研究、データサイエンスの活用



- 農薬・医薬・医療材料の**生物系評価研究**
- 安全性研究センター
- ライフサイエンスの研究拠点

- **機能性高分子材料設計、微粒子制御**を活用・融合
- ディ스플레이、半導体用材料開発
- 次世代材料開発

Contents

1	歴史とコア技術	P4
2	R&D体制	P7
3	方針と基本戦略	P10
4	事業基盤の強化	P12
5	次世代材料・新剤、新製品の開発ターゲット	P18
6	各研究所における取組み	P21
7	目指す姿	P41

経営計画スローガン

価値共創で未来に挑む企業へ

持続的な成長、安定収益の礎を築く

現有事業の利益拡大

成長分野の強化

- 半導体、農業化学品へ資源を集中投下
- 次世代材料・新剤の開発
 - ・半導体：実装材料、EUV材料など
 - ・農業化学品：バイオ農薬、新規動物薬など
- 戦略投資(M&A)の積極活用

A系製品の収益性改善

- 固定費の圧縮
(2024年度 減損計上済)
- コストダウンの継続実施
- 外部製造委託の活用
- 不採算製品の販売中止

2030年を見据えた 新製品の開発

- Go/Stopの迅速化
- ターゲット材料の明確化
- 戦略投資(M&A)の積極活用

事業基盤の強化

- 人材育成の強化
- 研究開発基盤および機能の拡充
- デジタル基盤の拡充
- 知的財産の活用強化

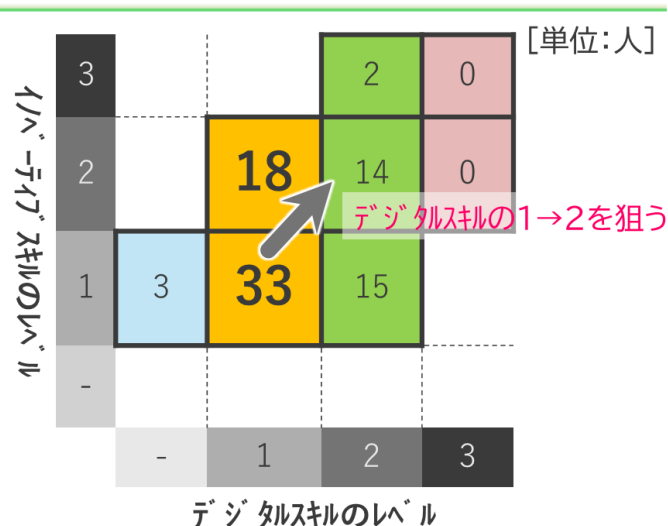
Contents

1	歴史とコア技術	P4
2	R&D体制	P7
3	方針と基本戦略	P10
4	事業基盤の強化	P12
5	次世代材料・新剤、新製品の開発ターゲット	P18
6	各研究所における取組み	P21
7	目指す姿	P41

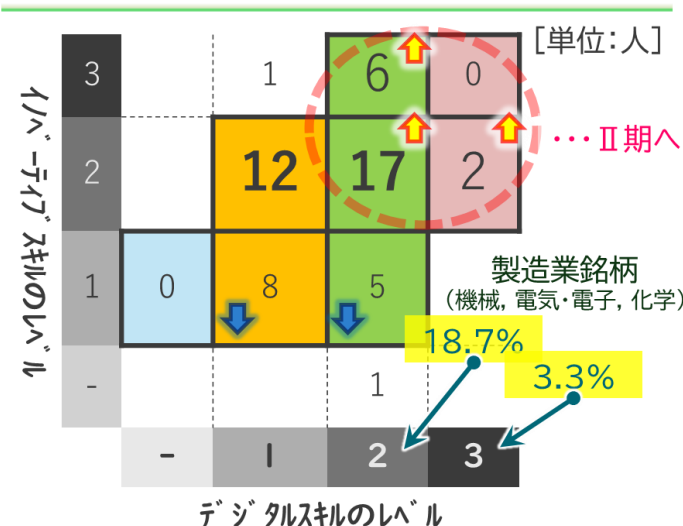
4. 事業基盤の強化 - 人材育成の強化 -

情報科学のリテラシー向上 外部コンサルタントとの協業による研修とアセスメントの実施

研修前初期能力〈デジタル×イノベティブ〉



実施後能力〈デジタル×イノベティブ〉



高度データサイエンティストの育成 大学、外部機関での実務講座・研修の実施



4. 事業基盤の強化 - 人材育成の強化 -

材料科学研究所での人材開発グループの設置

優秀研究員の育成とキャリアアップ支援、効率化

MI、DX人材の育成支援

目利き人材の育成（イントラプレナーシッププログラム）

テーマ選定

<企画本部・事業部・人事部で協議>

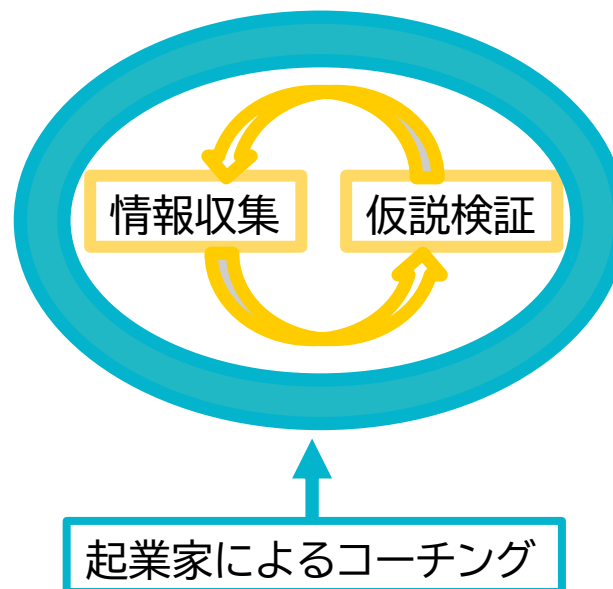
メンバーの選定

<研究所・事業部・企画本部・知財部から選定>

マイルストーンの設定

<6か月～1年>

<テーマのブラッシュアップ>



<アウトプット>

事業化・スケール化

顧客訪問により需要確認

<実施例>

- 化粧品原料開発
- 核酸創薬
- 二次電池用材料

4. 事業基盤の強化 - 研究開発基盤および機能の拡充 -

評価・解析機能の強化

最先端の評価、解析機器の導入による研究開発の効率化、高度化



二次元X線回折装置

材料の結晶性や配向性
などの特徴を可視化



X線光電子分光装置(XPS)

材料の表面組成、分子結合
状態、 薄膜の深さ分析等



Orbitrap質量分析計

混合物から化合物を分離、
高精度で同定



欠陥検査システム

ウェハ上に塗布した薄膜の
異物検査、解析



マイクロドロプレットジェネレーター・セクター

特定の微生物を微小ドロプレットに分離、解析

4. 事業基盤の強化 - 知的財産の活用強化 -

IPランドスケープの一般的な定義

「経営戦略又は事業戦略の立案に際し、経営・事業情報に知財情報を組み込んだ分析を実施し、その分析結果(現状の俯瞰・将来展望等)を経営者・事業責任者と共有すること」

令和2年度特許庁産業財産権制度問題調査研究報告書「経営戦略に資する知財情報 分析・活用に関する調査研究」より引用

日産化学における「IPランドスケープ」

ターゲット領域における特許情報の抽出、解析から得られる「**特許情報**」と技術動向、マーケット情報、社会情勢等の「**非特許情報**」とを併せその領域の将来を予測(**仮説立案**)し経営、事業判断に資する**戦略提言**を行うこと。



4. 事業基盤の強化 - 知的財産の活用強化 -

これまでIPランドスケープを用いて行ってきたこと

- ✓ 進行中テーマのGo/Stop判断に資する情報提供、有望な攻め筋の提案
- ✓ 新規な技術領域の動向把握および有望なスタートアップ企業の抽出
- ✓ 当社保有技術/材料の有望な他用途の探索・抽出
- ✓ 協業候補企業とのシナジー効果の検討
- ✓ M&A候補企業の知財デューデリジェンス

IPランドスケープの推進体制

AIPE(知的財産教育協会)認定知的財産アナリスト^{※1}

企画本部に1名、知的財産部情報戦略室に2名(増員予定)を配置。

協業によりIPランドスケープを推進中。

※1 企業経営・ファイナンス・知的財産に関する専門知識を有し、国内外の他社・自社の各種知的財産関連情報の収集・分析・評価・加工、知的財産あるいは企業の価値評価等を通じて、企業の戦略的経営に資する情報を提供できる特殊スキルを持つ職種。

知的財産教育協会Website(<https://ip-edu.org/ipa/info>)より引用

Contents

1	歴史とコア技術	P4
2	R&D体制	P7
3	方針と基本戦略	P10
4	事業基盤の強化	P12
5	次世代材料・新剤、新製品の開発ターゲット	P18
6	各研究所における取組み	P21
7	目指す姿	P41

5. 次世代材料・新剤、新製品の開発ターゲット

現有事業

2027年度中計

		10億円未満	10億円以上	合計
化学品	● ファインケミカル	FO(新グレード)		6億円
		スターファイン		
機能性材料	● ディスプレイ	ハードコート材		113億円
		調光フィルム		
		透明PI		
		光VA		
		次世代EL材料		
	● 半導体		三次元実装材料	
			EUV材料	
	● 無機	新規オルガノシリカゾル		
		高屈折材料		
	● その他	CIS関連		
農業化学品		NC-520(殺虫剤)	ベルダー	96億円
		NC-656(除草剤)	ダイセン	
			キンテック	
ヘルスケア	● ファインテック	新規原薬	エルデカルシトール	24億円
		ペプチド受託		

合計239億円

2030年度 イメージ

		10億円未満	10億円以上	30億円以上
		FO(新グレード)		
		スターファイン		
		ハードコート材		次世代EL材料
		調光フィルム		
		透明PI		
		光VA		
				三次元実装材料
				EUV材料
		新規オルガノシリカゾル		
		高屈折材料		
		CIS関連		
			キンテック	ベルダー
			NC-520(殺虫剤)	NC-656(除草剤)
				ダイセン
		新規原薬	エルデカルシトール	
			ペプチド受託	

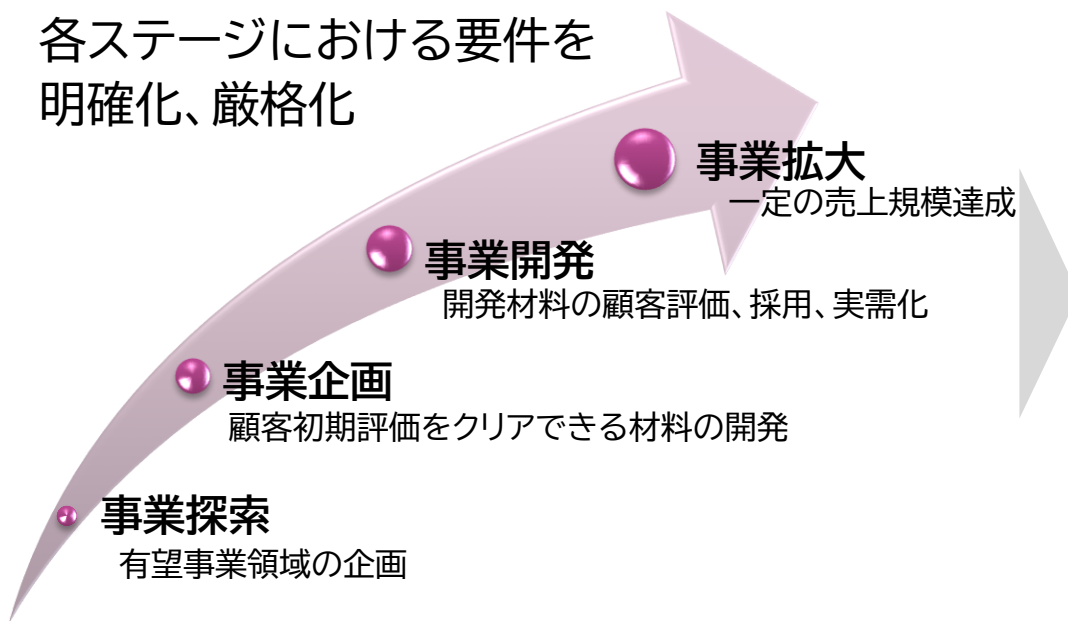
5. 次世代材料・新剤、新製品の開発ターゲット

企画本部

Go/Stopの迅速化、組織再編によるターゲットの明確化により、選択と集中を加速

Go/Stopの迅速化

各ステージにおける要件を
明確化、厳格化



ターゲットの明確化

2025/4/1
企画本部組織改編で新設

SA*1事業化グループ

光配線材料開発グループ

放熱材料開発グループ

エネルギー材料開発グループ

新領域事業企画グループ

変更無し

研究統括部

ヘルスケア企画部

アミラルテ企画グループ

PSC*2材料開発チーム

水素エネルギー材料開発チーム

次世代電池材料開発チーム

新製品売上高*3

2030年度 イメージ

	10億円未満	10億円以上	30億円以上
企画本部	ライフサイエンス	情報通信	環境エネルギー

*1:SA(Slurry Additives, スラリー添加剤) *2:PSC(Perovskite Solar Cells, ペロブスカイト太陽電池)

*3: 2019年度以降に販売開始の製品等(サンプル出荷含む)

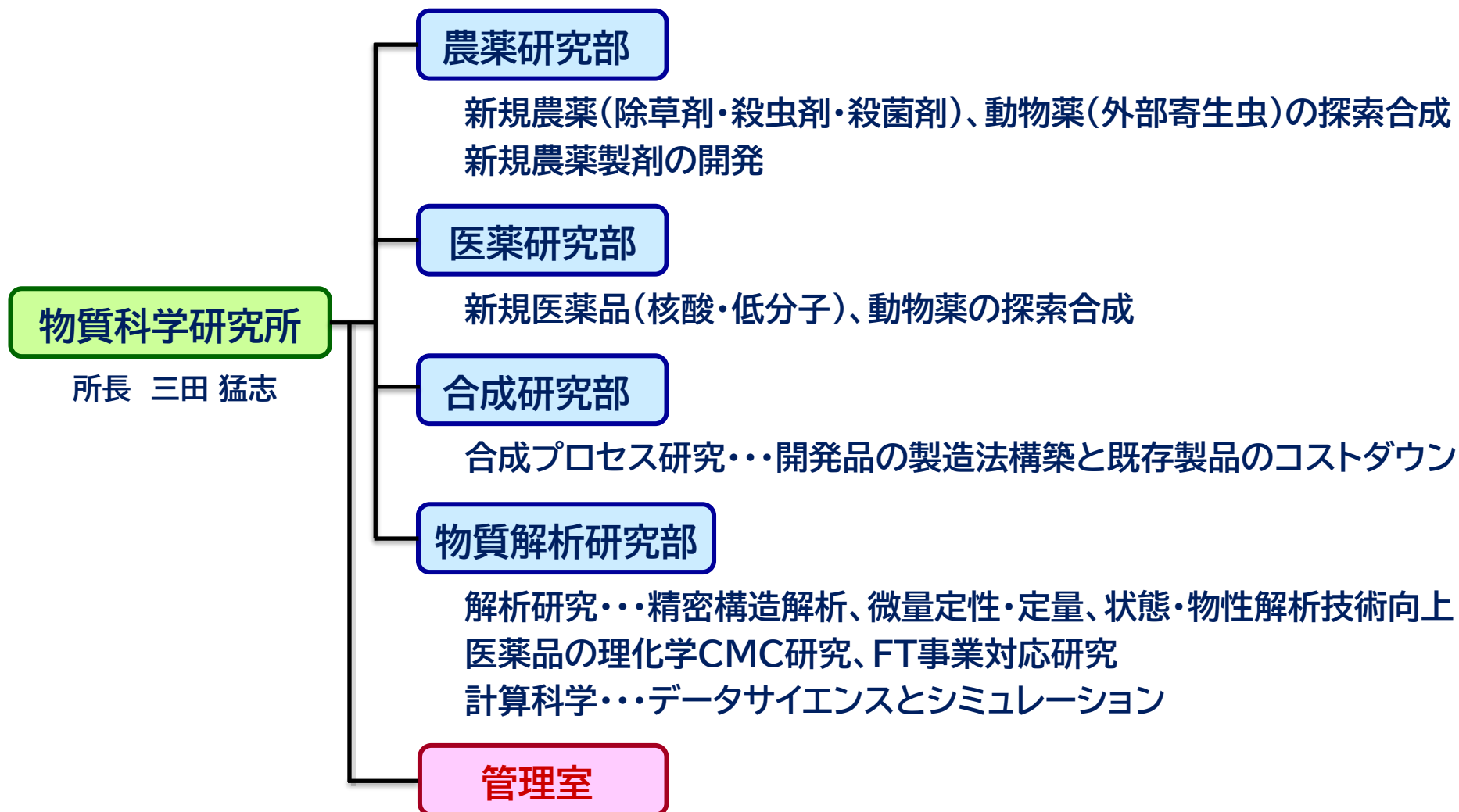
Contents

1	歴史とコア技術	P4
2	R&D体制	P7
3	方針と基本戦略	P10
4	事業基盤の強化	P12
5	次世代材料・新剤、新製品の開発ターゲット	P18
6	各研究所における取組み	P21
7	目指す姿	P41

6. 各研究所における取組み

物質科学研究所

組織編成とミッション

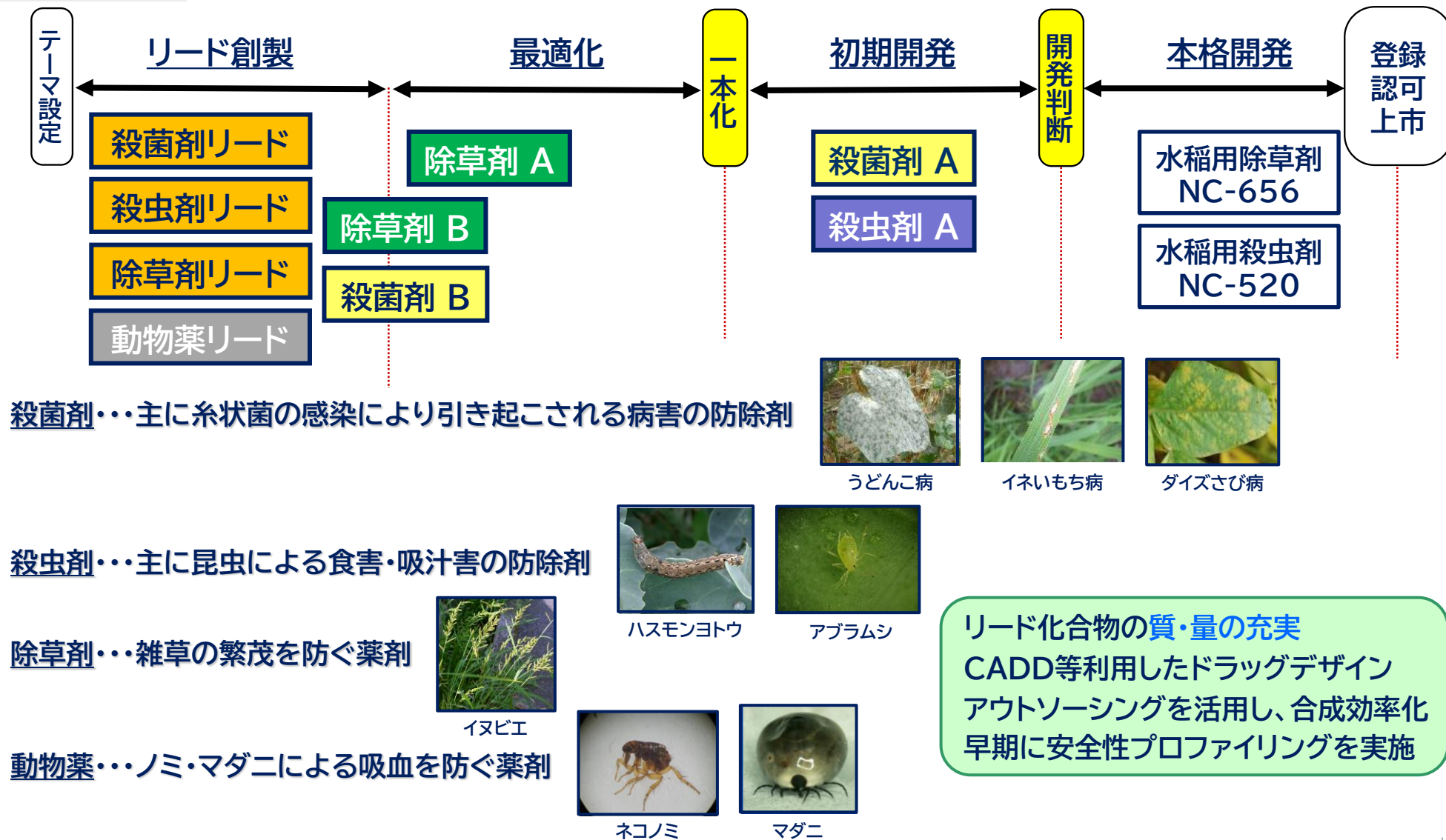


6. 各研究所における取組み

現有事業

物質科学研究所

農薬研究部



医薬研究部

新規医薬品(核酸・低分子)、動物薬の探索合成

基盤技術をさらに強化し、自社あるいは国内外製薬企業、スタートアップ、アカデミアと共同で創薬推進
現行パイプラインのステージアップ、アニマルケアの開発品創出に注力

【ヘルスケア】

Planning/FS

Hit to lead

Candidate
selection

Pre-Clinical

Clinical

低分子 共同

A

NIP-322

NTC-801

核酸

共同

自社

E

C

F

D

B

SN-001

G

NTC-801:不整脈治療薬

NIP-322:疼痛治療薬

SN-001:DRPLA(歯状核赤核淡蒼球ルイ体萎縮症)治療薬

【アニマルケア】

低分子 共同

J

I

H

基盤技術開発

AI/ML

ASO/ss-HDO

DNA encoded Library

ハイスループット合成

siRNA

核酸医薬デリバリー

合成研究部

当社各事業部門で開発された新製品の遅滞ない上市と利益最大化を目的とした製造方法の研究開発を行う

材料プロセスG



遮光



透過

KYUSYU NANOTEC OPTICS
<https://kyunano.co.jp/product/>

農薬プロセスG

新製品



本格開発品

NC-656
除草剤

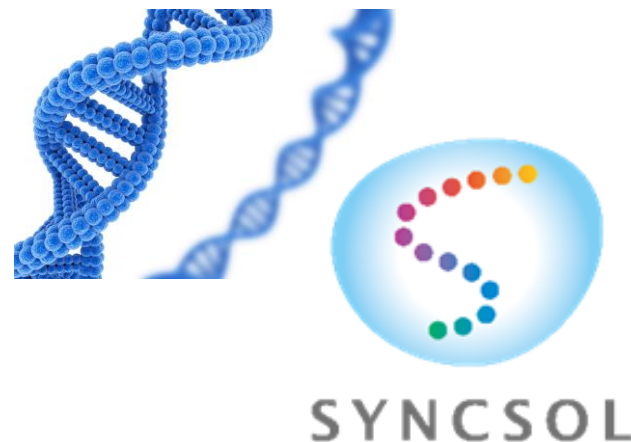
NC-520
殺虫剤

初期開発品

殺菌剤 A

殺虫剤 A

医薬プロセスG



- 機能性材料及び重要原料
 - 多岐にわたる開発品の迅速且つコストダウン可能な製造法を開発
- 例) 調光フィルム材料の重要原料を短工程で製造する新製法を開発

- 農薬原体
 - 大量生産且つコストダウン可能な農薬原体の製造法を開発中
- 例) 開発品原体の安価原料を用いる新製法を開発

- 中分子医薬品原薬
 - オリゴ核酸、ペプチドの製造法を開発中
- 例) 当社液相製造技術を用いたペプチド原薬の新製法を開発

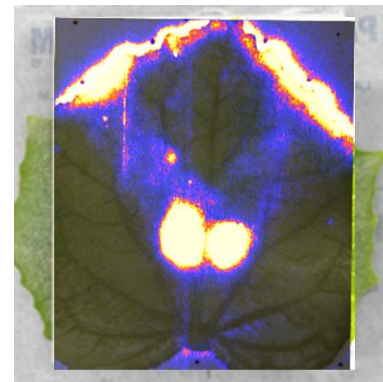
物質解析研究部

最先端解析技術の導入とその社内展開により、新製品開発に競争力・優位性を付与

☆ 農薬分布と病害部位の関係を明らかにする(MSイメージング) → 他社品との差別化へ

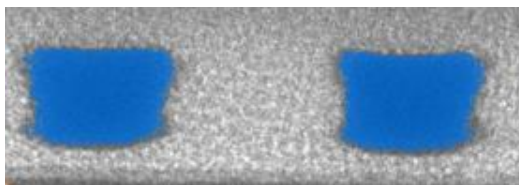
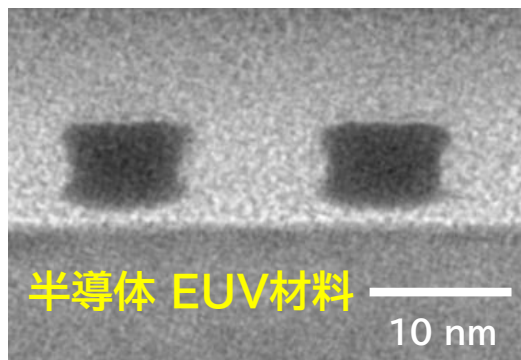


10日後の葉
(きゅうりうどんこ病)

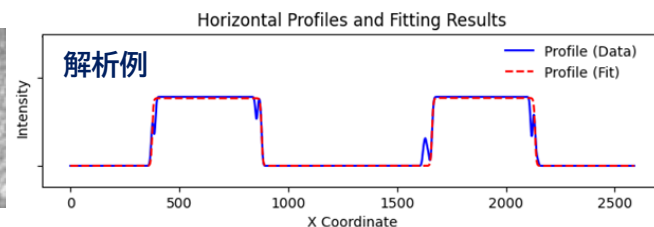


10日後の葉中の薬剤の分布

☆ 微細構造解析と画像解析 → 機能の数値化へ



レジスト形状の画像解析(数値化)



新製品開発へ：イメージングや画像解析、MIの活用、外部大型施設の活用(NanoTerasuなど)

6. 各研究所における取組み

材料科学研究所

組織編成とミッション

材料科学研究所

所長 仁平 貴康

ディスプレイ材料研究部

LCD用配向材ならびに次世代ディスプレイ(EL、 μ -LED等)周辺材料の研究開発

半導体プロセス材料研究部 (旧 半導体材料研究部)

BARCならびに仮貼り材を軸とした半導体用プロセス材料、実装材料の研究開発

無機コロイド材料研究部 (旧 無機材料研究部)

研磨用途での水ゾル材料の研究開発
高屈・低屈ゾルの研究開発
無機コロイド新製品(絶縁、Oil&Gasほか)の研究開発

半導体周辺材料研究部

新設

CMOSイメージセンサ(CIS)を軸としたセンサ周辺材料の開発
光通信関連材料の研究開発
次世代実装の研究開発

エネルギー材料研究部

新設

電池(LiB、FC、PSC等)周辺材料の研究開発
エネルギー関連の新素材および新技術の調査研究

人材開発グループ

新設

部長伴走による優秀研究員の育成とキャリアアップ支援
新テーマの横軸タスクフォース編成、プロジェクト化推進
MI、DX人材の育成支援

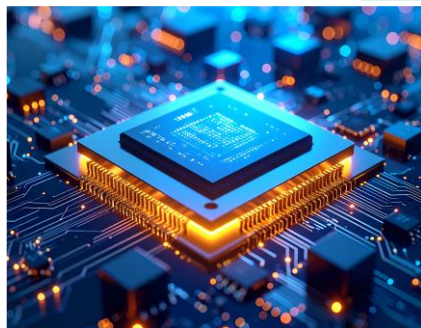
総務グループ

6. 各研究所における取組み

材料科学研究所

材料科学研究所のビジョン

機能性材料開発の中核拠点として、顧客満足を第一義に高付加価値製品を継続創出する
人を育て、人を活かし、人の力で変化の波を乗り越える



半導体

EUV

3次元実装

光電融合



ディスプレイ

高コントラスト

高色再現性

低消費電力

PFASフリー

AR/VR



エネルギー

LiB

カーボンニュートラル

全固体・水素燃料・ペロブスカイト電池

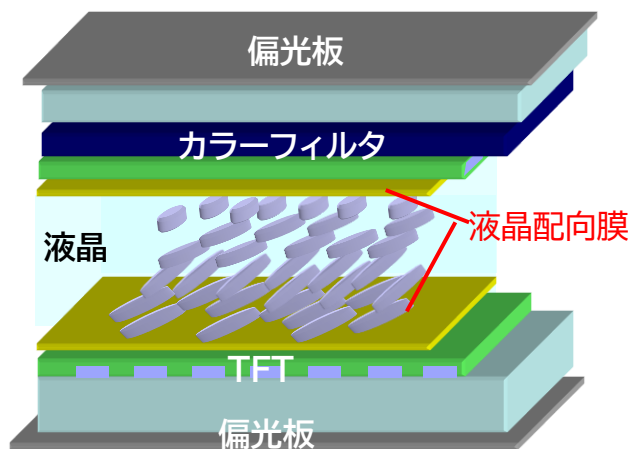
6. 各研究所における取組み

現有事業

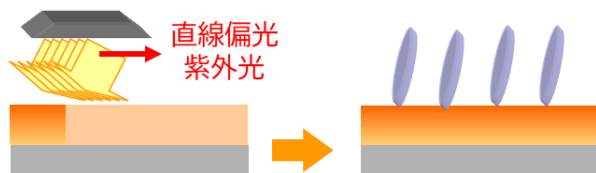
材料科学研究所

ディスプレイ材料研究部

LCD用液晶配向材



■ 光配向法



IT、TV用液晶配向材の開発継続
光VA材料に注力

VA: Vertical Alignment

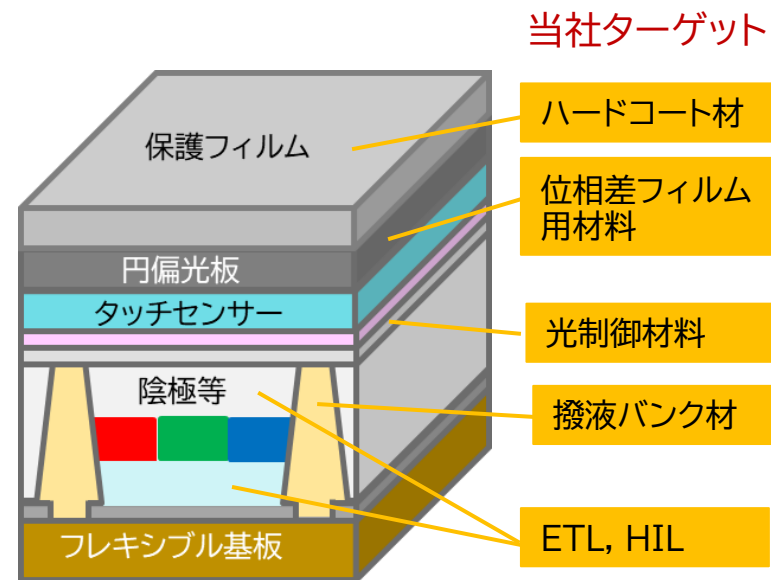
調光フィルム用材料



KYUSYU NANOTEC OPTICS
<https://kyunano.co.jp/product/>

- 当社材料: 液晶配向材
- 用途: 車載・建材用調光フィルム

EL材料



ETL: Electron Transport Layer
HIL: Hole Injection Layer

- 当社材料: OLED, QD-EL周辺材料
- 用途: 次世代ディスプレイの性能向上

OLED: Organic Light-Emitting Diode
QD-EL: Quantum Dot Light Emitting Diode

次世代材料・新剤

6. 各研究所における取組み

現有事業

材料科学研究所

ディスプレイ材料研究部

	量産	次世代ELディスプレイ	
ELタイプ	蒸着OLED	印刷OLED	QD-EL(印刷)
構造と材料への要求特性	25% (理論発行効率) 80% (色純度)	25% (理論発行効率) 80% (色純度)	100% (理論発行効率) 100% (色純度)
	■ 表示品質の改善	■ 大面積化によるコストダウン ■ 高精細化による機種拡大 ニーズ	■ QD-ELの印刷性の改善
当社のターゲット	発光素子から出た光を効率よく目に届ける表層材料		
	電気特性/印刷性に優れた高精細対応のバンク材		
	QDの潜在力を引き出す周辺材料		

6. 各研究所における取組み

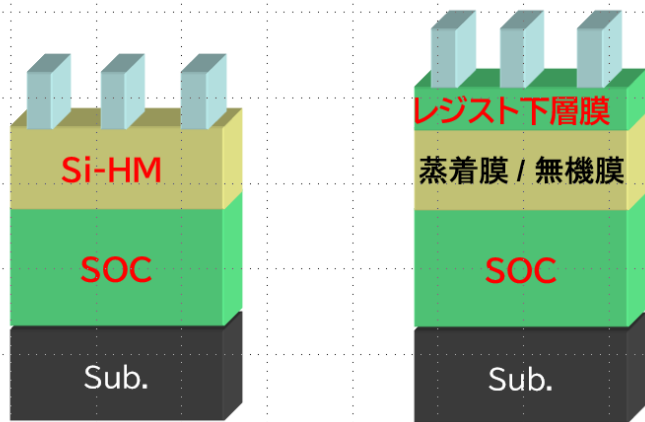
現有事業

材料科学研究所

半導体プロセス材料研究部

EUV UL

	2025	2026	2027	2030
Logic Device	3nm	2nm	1.4nm	<1nm
Tech	Low NA EUV		High NA EUV	



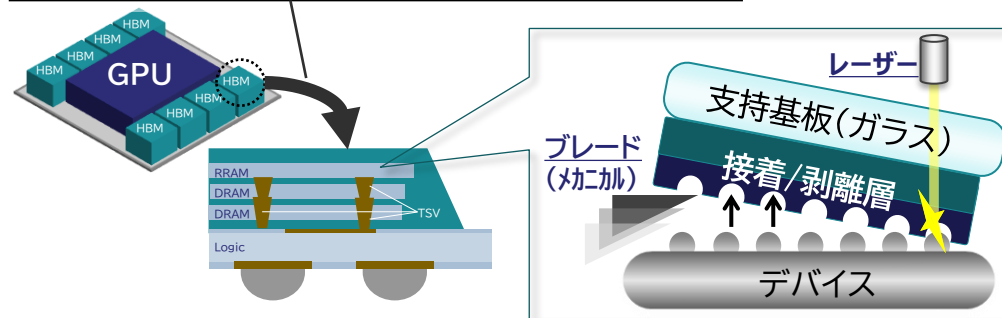
レジスト下層膜: EUV下層膜
Si-HM: シリコンハードマスク
SOC: スピンオンカーボン

先端フォトリソグラフィ(EUV)用途の下層膜を継続して開発。

三次元実装材料

	2025	2026	2027	2030
Device	HBM4	HBM4E ～X		HBM X
Customer Process	バンプ ボンディング		ハイブリッド ボンディング	
仮貼り材	メカニカル剥離用			
	レーザー剥離用			

HBM(High Bandwidth Memory): 広域帯メモリ



- 当社材料: 仮貼り合せ剤
- 用途: HBMデバイス製造用 仮貼り合せ
 - 接着/剥離機能を有する塗布型の仮貼り材
 - プロセスに合わせてメカニカル剥離・レーザー剥離を開発中

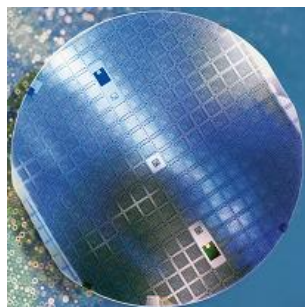
6. 各研究所における取組み

現有事業

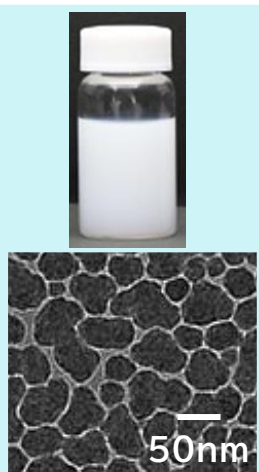
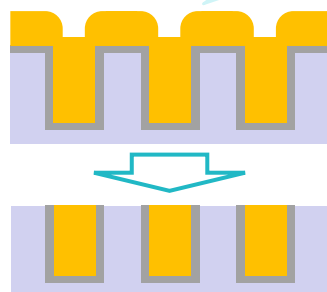
材料科学研究所

無機コロイド材料研究部

CMPスラリー用ゾル



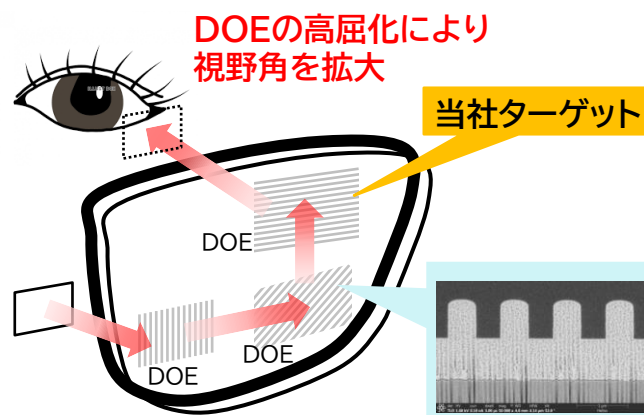
ナノシリカで研磨



- 当社材料: 低Naシリカゾル
- 用途: 半導体配線層の研磨・平坦化

CMP: Chemical Mechanical Polishing

高屈ゾル

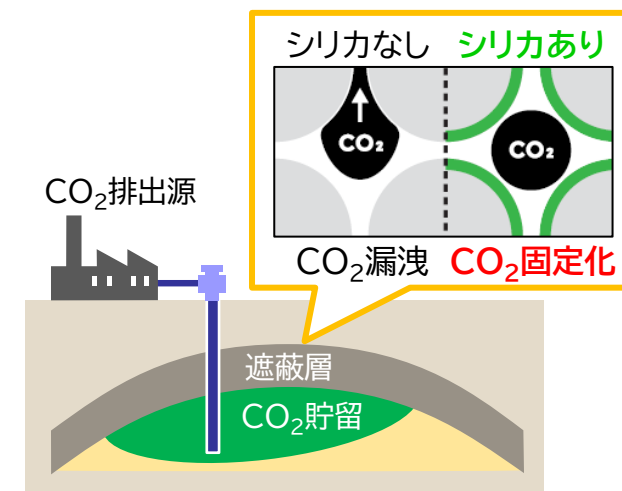
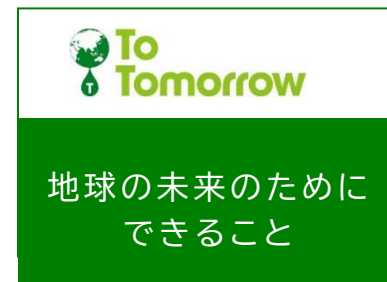


- 当社材料: TiO_2 ゾル、 ZrO_2 ゾル
- 用途: ARガラス用の回折光学素子

DOE: Diffractive Optical Elements(回折光学素子)

次世代材料・新剤

CCS用ゾル



- 当社材料: CCS用シリカゾル
- 用途: CO2貯留促進剤

CCS: Carbon dioxide Capture and Storage

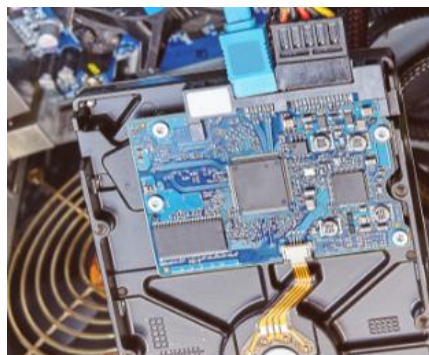
6. 各研究所における取組み

企画本部

材料科学研究所

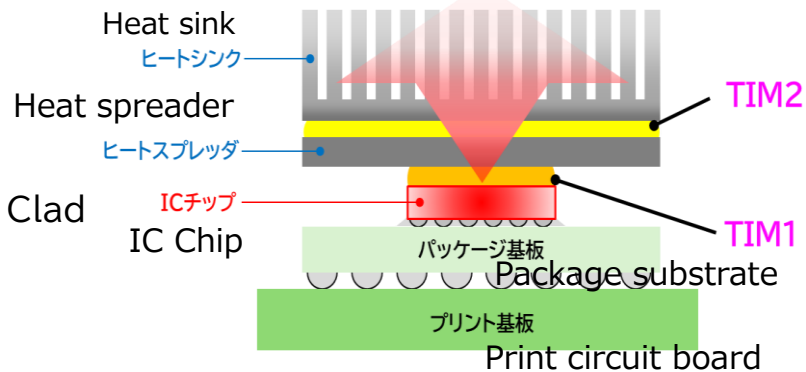
半導体周辺材料研究部

光配線材料



- 当社材料: 光導波路用コア/クラッド材料
- 用途: 光電融合素子の光伝送損失低減

放熱材料



- 当社材料: 放熱材料 (TIM1, TIM2)
- 用途: 発熱体と放熱部品間の熱抵抗低減

超極薄銅箔



- 当社材料: キャリア付超極薄銅箔
- 用途: 微細銅配線形成用シート層

6. 各研究所における取組み

企画本部

材料科学研究所

エネルギー材料研究部

LiB用スラリー添加剤

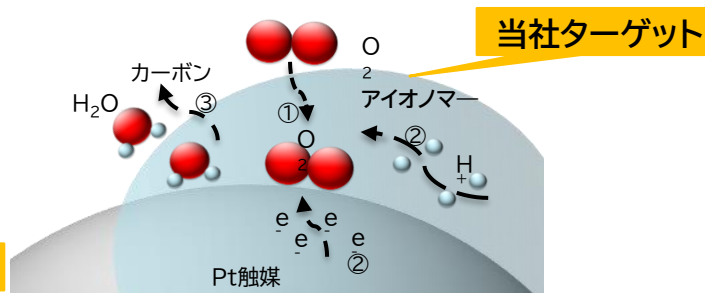


活物質、バインダー、
導電材などの
混合スラリー

当社ターゲット

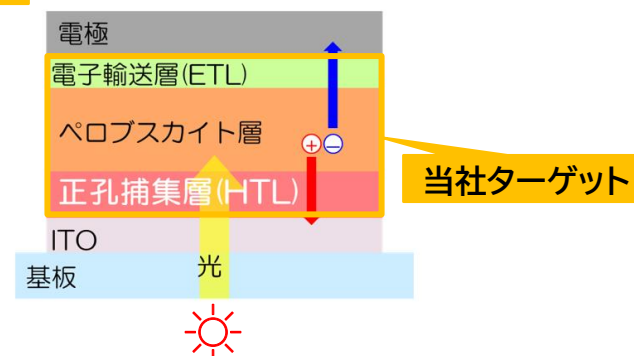
- 当社材料:スラリー添加剤
- 用途:電池特性及び、製造効率向上

水素エネルギー材料



- 当社材料:水素イオン伝導性ポリマー
(アイオノマー)
- 用途:水の電気分解、燃料電池の高効率化
PFASフリー

ペロブスカイト太陽電池用材料

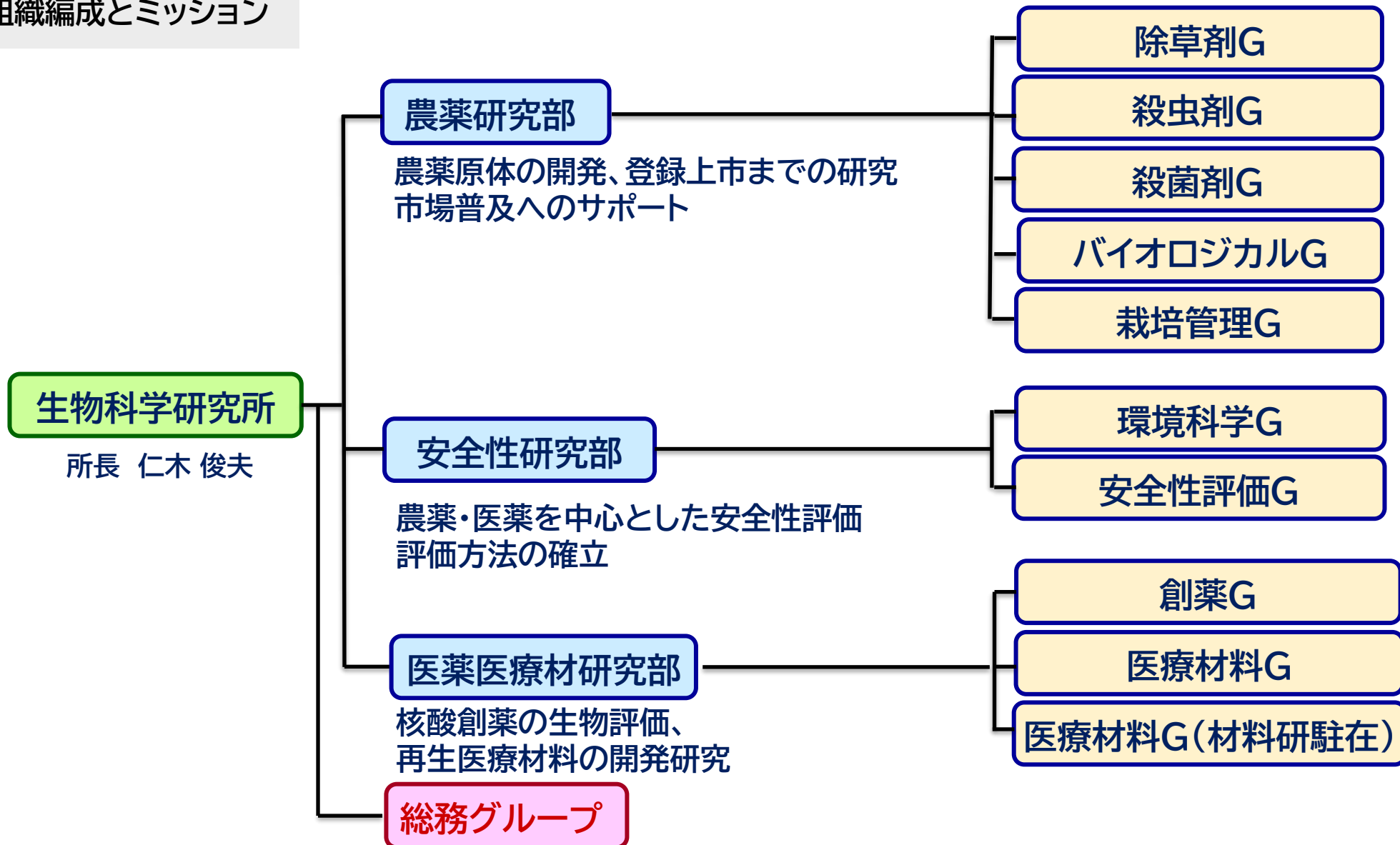


- 当社材料:発電層周辺部材
- 用途:太陽電池の耐久性向上

6. 各研究所における取組み

生物科学研究所

組織編成とミッション



農薬研究部

01

開発 普及サポート

400を超える農薬品目

除草剤・殺虫剤・殺菌剤などの販売サポート

+

- 新混合剤開発
- 新製剤、新処方開発
- 新適用分野検討
- 新規導入剤評価
- 抵抗性、薬害対策

物質科学研究所・埼玉工場・農業化学品事業部との協業



動物薬「フルラネル」の用途別製品



- イヌのサイズ別に用量の異なる錠剤
- ネコ用にはスポットオン剤
- 合剤の開発も



鶏用 エグゾルト®



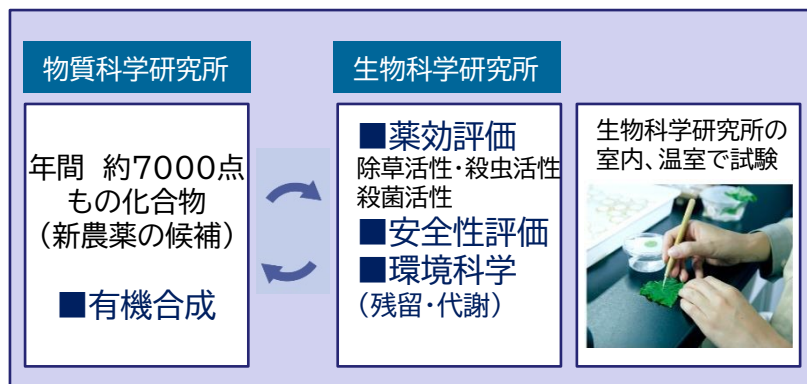
家畜用 エグゾルト®

農薬研究部

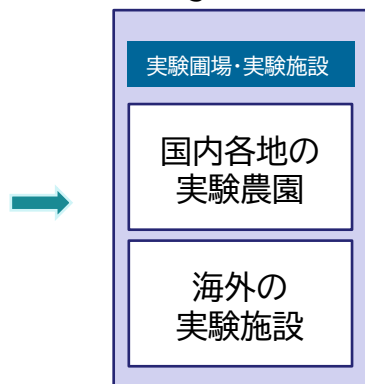
02

新農薬 創製研究

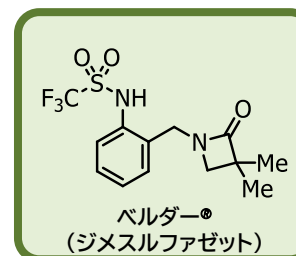
Stage 1



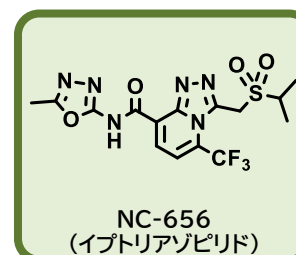
Stage 2



近年の開発上市剤



- ✓2024年:登録取得
- ✓ピーク時売上目標:60億円
- 国内水稻トップシェアを維持・拡大



- ✓2027年:上市予定
- ✓主要な除草剤使用国で開発中
- ✓ピーク時売上目標:100億円
- グローバルな大型水稻除草剤で
新規市場を開拓

農薬研究部

バイオ農薬開発戦略

研究体制(基盤、創製、開発、製剤、培養)、製造、登録、販売ルート of 構築

日産化学

微生物研究チームの立ち上げ (生物科学研究所 バイオロジカルG)

共同研究

バイオ農薬創製研究、マイクロバイーム解析技術、新技術導入

共同開発

自社・他社ライブラリー最適化

導入

既存剤導入検討
(グループ会社へもアクセス)

⇒⇒⇒

拡販・販売ルート、登録制度

M&Aも視野に

安全性研究部

新技術を活用し、安全性課題の回避プロセスを迅速に提案

➤ オミクス解析技術の導入・向上

オミクス解析とは…

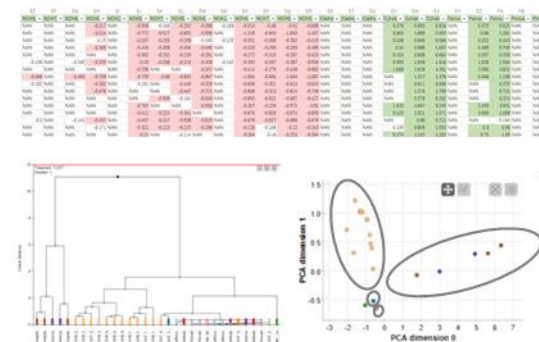
mRNA等の生体分子の網羅的解析

毒性発現機序解明やバイオマーカー探索に活用



機序に基づく毒性回避スクリーニング系構築が可能！

動物実験の削減にも寄与！

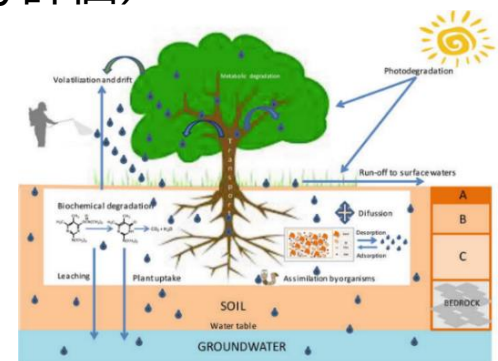


- 環境動態評価のハイスループット化 (Wet評価)
- 機械学習・AIを用いた環境動態パラメータの予測系構築 (Dry評価)

地下水汚染、環境毒性等のリスクが農薬登録に大きく影響
農薬創製の初期からWet/Dryの両面から評価



環境にやさしい農薬創製を実現！



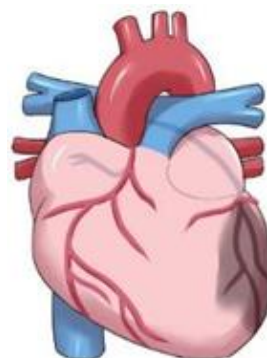
医薬医療材研究部

- ✓ 創薬/再生医療、生物/材料のハイブリッドチーム
- ✓ 市場と顧客ニーズの変化に応じたスピード感のある開発
- ✓ 常に変革を求めるチャレンジ精神

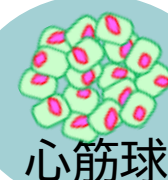


『他家iPS細胞由来再生心筋』

虚血性心疾患に伴う重症心不全治療
国内治験1及び2相 全10例投与完了
(Heartseed株式会社)



高生着率

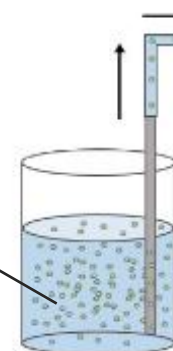


心筋球製造に貢献
prevelex®-CC1

『細胞安定供給バリューチェーンコンソーシアムに参画』

細胞の量産化プロセスに貢献
FCeM® Advance-CR

培地に添加



均一分注

保存/輸送

細胞大量製造

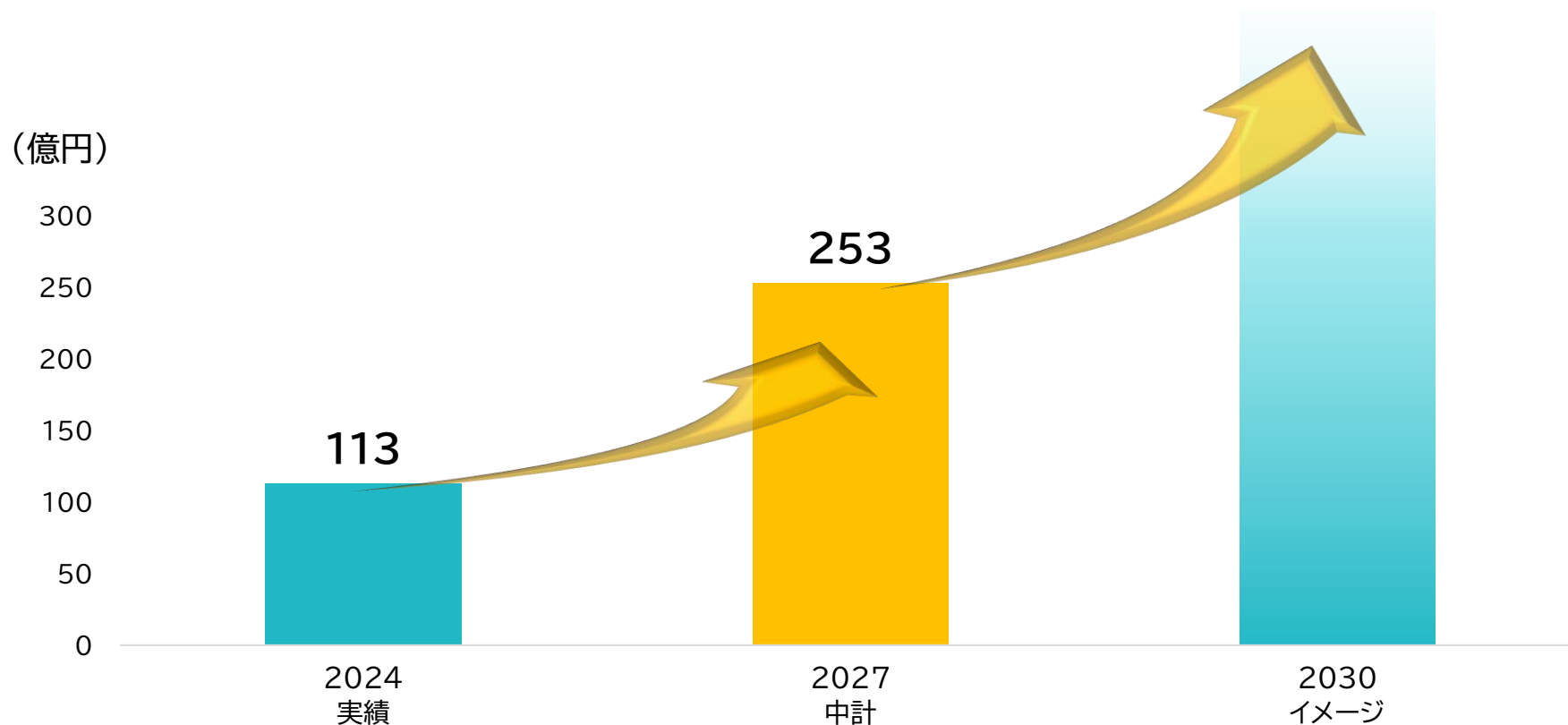
Contents

1	R&Dの歴史とコア技術	P4
2	R&D体制	P7
3	方針と基本戦略	P10
4	事業基盤の強化	P12
5	次世代材料・新剤、新製品の開発ターゲット	P18
6	各研究所における取組み	P21
7	目指す姿	P41

7.目指す姿 -Vista2027 Stage II-

次の成長ドライバーとなる製品を開発

次世代材料・新剤、新製品 売上高



*: 2019年度以降に販売開始の製品等(サンプル出荷含む)

7.目指す姿 - Atelier2050 -

既存のコア技術に加え、新技術を獲得し、3つの成長事業に関する新たな領域に進出
コア技術の深化と融合により各事業領域の成長を加速させ、社会課題解決に貢献する

社会課題
の解決

地球環境の保全
食料問題の解決

気候変動の緩和
スマート社会の実現

健康問題への対応
生活の質の向上



事業

新たな領域
への進出

① 情報通信

- 半導体材料
- ディ스플레이材料
- 光機能性材料

● センシングシステム
(IoTセンサー材料)

- メタマテリアル材料

② ライフサイエンス

- 農薬
- 動物薬
- 生体材料
- 医薬品
(低分子、核酸、ペプチド)

- バイオスティミュラント
- マイクロバイオーム
(農業・医療)
- CO₂還元システム
(微生物資材)

③ 環境エネルギー

- 2次・燃料電池材料
- 次世代太陽電池材料
- CCUS材料

④ 素材・サービス

- 工業薬品
- コロイダルシリカ
- 関係会社

成長事業

基盤事業

コア技術

既存技術

精密有機合成

機能性高分子設計

微粒子制御

生物評価

光制御

新技術

微生物制御

情報科学

本資料に記載されている将来の当社事業に関する見通しは、資料作成時点で入手可能な情報に基づいて当社が判断したものであり、将来の当社業績を保証するものではありません。様々な不確実要素により、実際の業績は予測と大きく異なる結果になる可能性があります。

また、本資料は投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断で行われるようお願いいたします。

本資料に掲載されている全てのコンテンツは、日産化学株式会社が所有しています。

